

家庭科 学習指導案

1. 日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇時限
2. 場 所 〇〇市立〇〇幼稚園
3. 学年・組 第3学年 (32名)
4. 科目 フードデザイン
5. 単元 (題材) 名 幼稚園で食育レッスンをしよう
使用図書は、教科書：『Food Changes LIFE』(教育図書)

6. 単元 (題材) の目標

- (1) 【知識及び技能】食育を推進することの重要性を理解し、家庭や学校及び地域で食育推進活動を推進するための関連する技術を身に付ける。
- (2) 【思考力、判断力、表現力等】家庭や学校及び地域における食育の推進について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。
- (3) 【学びに向かう力、人間性等】食育と食育推進活動について自ら学び、家庭や社会の人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、食育の推進に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

7. 教材観

この単元は、高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 「フードデザイン」の内容 (4) 食育と食育推進活動ア・イに対応している。食育基本法及び食育推進基本計画の趣旨を十分に理解し、これまでの学習を生かして家庭や地域における食育を推進する活動を行うことをねらいとしている。栄養素の機能や、ライフステージごとの栄養の特徴、食品ロス、食品の旬など既習事項の総まとめの学習として、近隣の幼稚園児のための食育について考えることで、生徒が自分ごととして取り組むことができ、学びが深まると考えている。

8. 生徒観

(省略)

9. 指導観

本単元では、食育基本法や幼児期の食生活について学習したあと、それらの知識やこれまでの学習を活用し、実習先の幼稚園児に伝えたいテーマとその方法を班で協力して考えさせる展開とし、食育の推進に主体的かつ協働的に取り組むことができるよう指導の工夫を行うこととする。実習では、幼児と一緒に昼食を食べる活動を取り入れることで、幼児期における食生活についての理解を促す。また、生徒が自分で作ったお弁当を持参させることで、自らの食生活への振り返りや食への興味・関心の向上の一助としたい。自分たちが作ったもので幼児が喜んでくれる経験は、各自の進路選択につながり、食育において次世代へ伝える世代としての自覚を育てるきっかけになると考えている。

10. 単元（題材）の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の現状を知り、食育を推進することの重要性を理解している。 ・乳幼児期の栄養の特徴を理解し、関連する技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の食生活の知識をもとに、幼児食の工夫を考え、表現している。 ・幼児に伝えたいテーマを考えるとともに、テーマ設定の理由や考えた過程を適切に表現している。 ・幼児に伝えたいテーマに基づき、幼児の発達段階に合わせた教材・台本を作成し、幼児に対して工夫しながら適切な発表をしている。 ・これまでの制作・実践を振り返り、保育実習で学んだことや食育の課題について考えた過程を表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的かつ協働的に調理実習に取り組んでいる。 ・主体的かつ協働的に幼児への食育に関する実習に取り組んでいる。 ・実践的・体験的な活動を通して、食育の意義や食生活に関心を持ち、自分自身のこれからの人生や生活に活かそうとしている。

○：総括的評価（記録に残す評価）
●：形成的評価（指導に生かす評価）

11. 単元（題材）の指導と評価の計画（12時間）

時	学習内容・学習活動	評価の観点			評価規準【観点】 (評価方法等)
		a	b	c	
第1時	食育について 食育基本法の趣旨、子どもの生活の現状や課題について理解する。	●			食生活の現状を知り、食育を推進することの重要性を理解している。【a】（小テスト）
第2時	ライフステージにおける栄養の特徴 幼児期の発達段階に応じた健康管理や栄養と食事などの食生活を理解する。	●			乳幼児期の栄養の特徴を理解し、関連する技術を身に付けている。【a】（小テスト）
第3時	幼児食の調理実習 アレルギーに対応したメニューや調理方法、食べやすく簡単に栄養価を高められるメニューについて考え実践する。		○	○	幼児期の食生活の知識をもとに、幼児食の工夫を考え、適切に表現している。【b】（レポート） 主体的かつ協働的に調理実習に取り組んでいる。【c】（行動観察、レポート）

	米粉黒豆マドレーヌ バター不使用玉ねぎとチー ズのマフィン				
第4時	オリエンテーション (教員による保育実習の内 容説明、注意点、食育レッ スン例の提示) 対象の幼児に応じた課題解 決に対するテーマの設定・ 検討・制作計画の立案を行 う。			●	主体的かつ協働的に幼児への食育に関する実習に取り 組んでいる。【c】(行動観察)
第5 ～9時	制作・練習 各班で設定したテーマに合 ったカードゲームや紙芝 居、劇などを制作・練習す る。		○	○	幼児に伝えたいテーマを考えると同時に、テーマ設定 の理由や考えた過程を適切に表現している。【b】(ワー クシート) 主体的かつ協働的に幼児への食育に関する実習に取り 組んでいる。【c】(行動観察、ワークシート)
第10時	リハーサル 事前指導、よりよい発表に つながるよう改善・修正を 行う。			●	主体的かつ協働的に幼児への食育に関する実習に取り 組んでいる。【c】(行動観察)
第11時 (本時)	保育実習 昼食や交流を通して幼児の 食事の様子や発達を確認 し、食育レッスンを実践す る。		○	○	幼児に伝えたいテーマに基づき、幼児の発達段階に合 わせた教材・台本を使い、幼児に対して工夫しながら 適切な発表をしている。【b】(制作物、ワークシート) 主体的かつ協働的に幼児への食育に関する実習に取り 組んでいる。【c】(行動観察)
第12時	振り返り 幼児との交流で気が付いた ことや発見したこと、幼児 の反応から発表のねらいや 工夫が伝わったかどうか など実習を振り返る。		○	○	これまでの制作・実践を振り返り、保育実習で学んだ ことや食育の課題について考えた過程を適切に表現し ている。【b】(レポート) 実践的・体験的な活動を通して、食育の意義や食生活 に関心をもち、自分自身のこれからの人生や生活に活 かそうとしている。【c】(レポート)

※「知識・技能」の観点については定期考査において、総括的評価を行う。

12. 本時の展開

(1) 本時の目標

幼児に伝えたいテーマに基づき、発達段階に合わせた教材・台本を使い、幼児に対して適切な発表を行う。
主体的かつ協働的に幼児の食育に関する実習に取り組む。

(2) 本時の評価規準

幼児に伝えたいテーマに基づき、発達段階に合わせた教材・台本を使い、幼児に対して適切な発表をしている。【b】
主体的かつ協働的に幼児への食育に関する実習に取り組んでいる。【c】

(3) 本時の準備物

生徒が制作した食育レッスンのおもちゃ等、名札

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	教員の働きかけや 生徒に投げかける問い	予想される生徒の姿	評価規準 (評価方法等)
出発前	○注意事項を確認する。	○幼児の手本となること、活動中は周囲の安全に気を付けることを再度確認する。 ○幼稚園で接する幼児のプライバシーを守ることを再度確認する。	○楽しく遊んでくれるか不安になる ○緊張で安全性などの配慮を忘れてしまう	
導入 5分	(幼稚園に到着) ○あいさつをする。			
展開1 20分	○各クラスに分かれる。 ○一緒にお弁当を食べ、幼児の食生活について理解を深める。	幼児とたくさん会話をし、幼児の言葉や食事に関する理解を深めるよう促す。	○何を喋っていいかわからず悩む ○なかなか食べない幼児にどんな声掛けをすればよいか分からず幼稚園教諭の様子を観察する ○幼稚園教諭の上手な声かけや行動に気付く ○幼児のお弁当が小さいことから、限りある容量で栄養バランスを考える重要性等に気付く	
展開2 20分	○発表班が順に、事前に準備してきた食育レッスンを行い、食育の楽しさや難しさを知る。	生徒をフォローできるよう、気になる班は事前に幼稚園の教員に情報共有しておく。	○話を聞いてくれない幼児にどう対応したらいいかわからず悩む ○幼稚園教諭の上手な声かけや行動に気付く ○用意したゲームに幼児が参加している様子を見て、改善点に気付く	幼児に伝えたいテーマに基づき、幼児の発達段階に合わせた教材・台本を使い、幼児に対して工夫しながら適切な発表をしている。【b】

			○食育を通し、野菜に興味を持つなど幼児の変容に気付く	主体的かつ協働的に実習に取り組んでいる。 【c】 (行動観察)
まとめ 5分	○別れのあいさつをする。	○高校に戻ってから、幼児のプライバシーを守ることを再度確認する。 ○本時の学びを忘れないうちに記録しておくよう促す。	○本取組を通し、園児や幼稚園教諭との人間関係が広がったことに気付く ○本時の交流で得られた気付きについて振り返る	

(5) 観点別学習状況の評価の判断基準の設定 (本時に総括的評価が伴う場合)

判断基準 評価規準	「十分満足できる」状況 (A)	「おおむね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況 (C) と判断する生徒に対する指導の てだて
【b】	教材・台本を効果的に使いながら、伝えたいテーマについて、幼児にもより具体的に分かるようにかつ、幼児のその場の状況に応じて協力して適切に発表している。	教材・台本を使いながら、伝えたいテーマについて、幼児にも分かるように協力して適切に発表している。	考えていることや得意なことを生かして、テーマ設定やゲーム性を高められるように助言を行う。
【c】	自分の班以外の発表時にも、幼児の反応や行動に応じた対応をするなど、主体的かつ協働的に実習に取り組んでいる。	主体的かつ協働的に実習に取り組んでいる。	自分のできる範囲で協力できることを考えて、幼児の隣に座る、膝に乗せる、拍手をする、荷物を運ぶなど行動するよう助言を行う。